



かがやく浜の子

令和元年度12月号

令和元年度重点目標 気づき 考え 行動する子「自分から みんなへ」

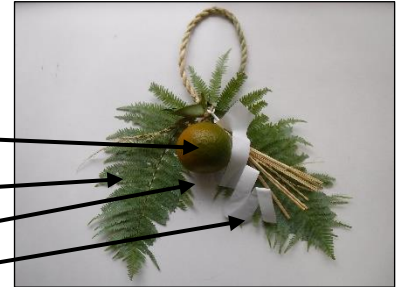
「しめ飾りづくり」と「愛情」と「自立」

白羽小学校では、ここ数年12月に、学校支援地域本部、地域の方の御協力を得て、6年生が正月用のしめ飾りを作っています。縄を編むのに、悪戦苦闘しながら、何とか完成にこぎつける子供たちの表情はどの子も満足そうです。残念ながら、今年はインフルエンザの流行が早く、本校にもその波が押し寄せてきましたので、しめ飾りづくりを中止とし、地区の皆さんが作成したしめ飾りを6年生がいただくことになりました。

お正月の飾りとして定番となっているしめ飾りですが、どんな意味があるのだろうか調べてみました。正月行事は、幸せを授けてくださる歳神様をお迎えするための行事です。しめ縄が神の世界と現世との結界となり、邪気や災いが侵入するのを防ぎます。これによって歳神様が、安心して降りてこられるのだそうです。その由来は、天照大神（アマテラスオミカミ）が岩戸から出てきたときに、再び戻らないようにしめ縄で塞いだことによるということです。

地域によって、様々な形のしめ飾りがありますが、今年6年生がいただいた「しめ飾り」には、「しめ縄」の他に、「うらじろ」「ゆずり葉」「だいだい」「しで」がついていました。御存知の方も多いかとも思いますが、それぞれの意味は次のようです。

| | |
|------|---------------------|
| ゆずり葉 | 家系を譲って絶やさない子孫繁栄を表す。 |
| うらじろ | 葉の裏が白いことから、純白を表す。 |
| だいだい | 家系が代々栄えることを願う。 |
| しで | 神様が降臨したことを表す。 |



【6年生がいただいたしめ飾り】

※

過日、校内での職員研修で、大学教授からの講話を聴く機会がありました。その中で、印象に残った一つのお話を紹介します。これからの季節、おいしいミカンの話です。「3歳の子が『ミカンを食べたい』と言ってきたとしたら、丁寧に向いて差し出してあげますか、自分で剥かせますか」という問いを受けました。これは、愛情のかけ方について考える例です。

御察しのとおり、よい愛情のかけ方は後者です。前者は、その時は「ありがとう」と感謝されますが、その子の自立にはつながりません。一方後者は、できた時に「すごいね！上手だね！」を、励ましの言葉（勇気づけのボイスシャワー）を、かけることで、「自分でできた」という自立を促します。

私たち大人（教師や親）は、子供たちの自立を促すために、どういう愛情のかけ方をしていくかを考え行うことが必要です。それが、子供たちへ「将来にわたって生きる力」を身につけさせることにつながります。

※

12月26日から冬休みに入ります。年末年始には、年中行事をはじめ、各御家庭でいろいろな計画を立てられていることと思います。今年のしめ縄づくりは、残念ながら実施できませんでしたが、各御家庭では、安全には十分に留意されて、子供たちが「できた」「やってよかった」という自立につながる体験をたくさん積み重ねてほしいと願っています。

2学期も本校の教育活動に、御理解と御協力を賜り、ありがとうございました。御家族そろって、穏やかなよいお年をお迎えください。（文責 校長）